令和7年度　　芸術（美術）　科

教科名等

科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
美術Ⅰ	1	A　B　C　D　E　F	2	必履修	70　時間

教科担当・教材等

授業担当者名	
教科書	光村図書「美術1」
使用教材等	鉛筆、練り消しゴム、彫刻刀、トレーシングペーパー、カーボン紙、アクリルガッシュ水彩絵の具、陶土、粘土板、粘土ヘラ

科目の目標

学習目標	【知識及び技能】 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し、創造的に発送し構想を練ったり、価値意識を持って美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

年間授業計画

学期	単元・単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準
1	A 単元名　木彫「印章箱」 【知】 木彫による表現や道具の扱い方を学び、凹凸の表現や、さまざまな彫りによる造形の美しさを学ぶ。 【思】 木材の特徴を生かしたデザインを考え、より立体感のある表現を工夫する。 【態】 主体的に取り組み、丁寧な作業の積み重ねが作品全体の質を高めることを実感する。 B 単元名　鉛筆デッサン「私の手」 【知】 鉛筆デッサンにおける画材としての鉛筆について、硬度や描画の方法を学ぶ。 【思】 参考作品を鑑賞し、光と陰影の表現について理解し、モチーフをよく観察して、捉えたことを画面に表現する。 【態】 主体的にデッサンに取り組み、観察眼を磨こうとする態度を養う。	木彫「印章箱」　木材の種類について。木目について。彫刻刀の種類について。彫刻刀の使い方について。着彩の方法について。やすりの種類と使い方について。ニスとワックスの特徴について。着彩にもこだわり、彫りの表現に沿うように考慮する。″硬度別の鉛筆の特性、構図の取り方、デッサンの基礎知識を学び、実践する。鉛筆でグレースケールを作り、明暗の色幅を学ぶ。陰影の表現、空間の表現を学び、作品に生かす。□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	【知】 木彫についての基礎知識を得て、基本的な彫り方が身についている。 画材としての鉛筆について、デッサンとは何かについて学び、構図の取り方や光の捉え方を習得している。 【思】表現したいモチーフを、よりよく表現するには、どうしたら良いかを考え彫り方の工夫をすることができている。 どのような描画の仕方をしたら、より質感が伝わるかなど、客観的な視点を取り入れた表現ができている。 【態】主体的に木彫について学び、彫りの技術を習得しようとし、より良い作品を仕上げようとしている。 主体的に、鉛筆デッサンに取り組み、最後まで丁寧な描写を探求しようとしている。
2	A 単元名　水彩画「名画の中の自画像」 【知】古今東西の世界中の名画を鑑賞し、任意1作品の名画の中に自画像を描き込む。国や時代背景の考察も含め、自分の表情をどのようなするかを考える。 【思】 元絵の中に、自分がどのように入ると作品がより美しく／面白くなるかを考え、表現する。 【態】 主体的に取り組み、元絵の美しさやよさを生かしつつ、いかに自画像を取り入れるか、試行錯誤して仕上げるという態度を養う。 B 単元名　陶芸「マグカップ」 【知】さまざまなをマグカップを鑑賞し、飲み物を容れる器としてのデザインには、どのようなものがふさわしいかを考える。 【思】 よりオリジナリティーのあるデザインになるよう、全体の形と加飾の表現に創意工夫をする。 【態】 主体的に取り組み、元絵の美しさやよさを生かしつつ、いかに自画像を取り入れるか、試行錯誤して仕上げるかという態度を養う。	古今東西の名画と呼ばれる人物が描かれている絵画作品を鑑賞し、引用したい作品を1点選ぶ。その作品の登場人物を自分に置き換えて水彩画で描く。たくさんの名画に触れることと、模写をすることで名画の名画たる所以を感じることを目標とする。□ 陶芸の工程の基礎、道具の名称や使い方を学び、板作りによるマグカップを制作する。形の美しさや、どのような加飾にするか等、デザインを考える。□ □ □ □ □ □	【知】 名画を鑑賞し、その作品が描かれた時代背景や文化を考察することにより、現代の作品との差異／または不動の美しさを感じ取ることができる。 陶芸の制作工程や道具の名称、取り扱い方を学び、段階を経た作業をすることができる。 【思】　名画の中に、自画像をどのようにアレンジしたらより良く／面白くなるかを創意工夫し、表現できている。 よりオリジナリティーのあるマグカップのデザインを考えることができている。 【態】主体的に取り組み、名画の画像準備などがしっかりとできている。細部にまでわたり、丁寧な表現を心掛けている。　主体的に取り組み、共用の道具を丁寧に扱い、周りに配慮しながら制作すrことができている。粘り強く丁寧に作業する集中力がある。
3	A 単元名　ステンシル「エコバッグ」 【知】ステンシル技法を学び、ステンシルでの表現にふさわしい下描きを考えることができる。 【思】型を作成する際にある制約を考慮しながら、自分のイメージに近い形を表現すること。 【態】 主体的に取り組み、細部まで丁寧に仕上げようとする態度を養う。	身の回りのバッグデザインについて。ステンシルについて。ステンシルでデザインする時の注意点について。ステンシルの道具と使い方について。着彩（捺染）のコツについて。	【知】 ステンシルの参考作品を鑑賞したことで、型紙作成の制約を理解した上で、イメージに合った型を作ることができている。 【思】 色面を隣りあわせたい場合には、どのような型が必要か、計画性のある表現がある。 【態】 主体的に取り組み、より楽しい／美しいエコバッグにしようという態度を養う。型からはみ出さないように務める集中力も養う。

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。